

製品名: コラーゲン III(Q76)マウスモノクローナル抗体

カタログ番号: AMM09214

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	IHC, ICC/IF
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、pH 7.4、0.5% 保護タンパク質、防腐剤として 0.02% 新型防腐剤 N、50% グリセロールを含有。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:50-1:300, ICC/IF 1:100-1:200
分子量	138kDa

抗原情報

遺伝子名	COL3A1
別名	COL3A1; Collagen alpha-1(III) chain
遺伝子 ID	1281.0
SwissProt ID	P02461
免疫原	コラーゲン III の合成ペプチド

背景

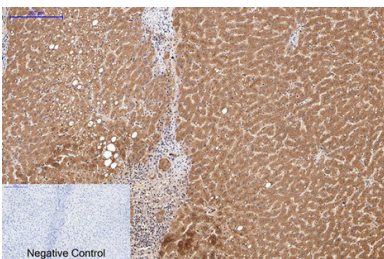
III型コラーゲン $\alpha 1$ 鎖 (COL3A1) ホモサピエンス この遺伝子は、皮膚、肺、子宮、腸、血管系などの伸展性結合組織に見られ、しば

しばしI型コラーゲンと関連している線維性コラーゲンであるIII型コラーゲンのプロ α 1鎖をコードしています。この遺伝子の変異は、エーラスダンロス症候群IV型、および大動脈瘤と動脈瘤に関連しています。この遺伝子では、交互ポリアデニル化シグナルの使用に起因する2つの転写産物が特定されています。[R. Dalglish 提供、2008年2月]、疾患: COL3A1の欠陥は、エーラスダンロス症候群3型(EDS3) [MIM:130020]の原因です。良性過剰運動症候群としても知られています。EDSは、皮膚の過伸展、組織の脆弱性による皮膚の萎縮性瘢痕、および関節の過弛緩を特徴とする結合組織疾患です。EDS3は、骨格変形を伴わない顕著な関節過伸展を特徴とするエーラスダンロス症候群の一種です。、疾患: COL3A1の欠陥は、腹部大動脈瘤(AAA) [MIM:100070]の感受性の原因です。AAAは、通常は大動脈壁の変性変化に起因する腹部大動脈の永続的な拡張を特徴とする一般的な多因子疾患です。組織学的には、AAAは慢性炎症の兆候、細胞外マトリックスの破壊的なりモデリング、および血管平滑筋細胞の枯渇を特徴とします。、疾患: COL3A1の欠陥は、エーラスダンロス症候群4型(EDS4) [MIM:130050]の原因です。EDSは、皮膚の過伸展、組織の脆弱性による萎縮性皮膚瘢痕、および関節の過弛緩を特徴とする結合組織疾患です。EDS4は最も重篤な病型です。他の病型と同様に関節および皮膚症状が現れるほか、多くの患者に特徴的な顔貌(先端性顔貌)が見られ、腸管および大動脈の自然破裂を起こしやすいことが特徴です。血管合併症は、あらゆる解剖学的領域に影響を及ぼす可能性があります。機能: III型コラーゲンは、I型コラーゲンとともに、ほとんどの軟部結合組織に存在します。、オンライン情報: III型コラーゲン α 1鎖の変異、オンライン情報: III型コラーゲンのエントリー、PTM: O結合型グリカンは、翻訳後に付加されたヒドロキシル基の酸素原子に結合したGlc-Gal二糖で構成されています。、PTM: トリペプチド繰り返し単位(G-X-Y)の3番目の位置にあるプロリン残基は、一部またはすべての鎖で水酸化されています。、類似性: 線維性コラーゲンファミリーに属します。、類似性: 1つのVWFCドメインを含みます。、サブユニット: 同一の α 1(III)鎖の三量体。鎖は鎖間ジスルフィド結合によって互いに結合しています。三量体はヒドロキシリジンを介して架橋されています。、

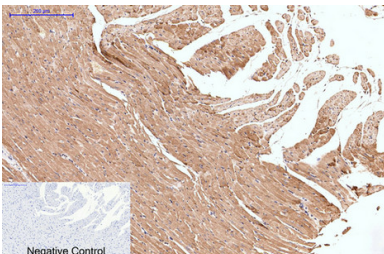
研究分野

焦点接着;ECM-受容体相互作用;

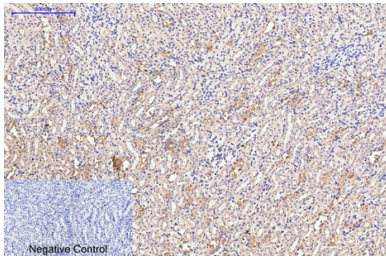
画像データ



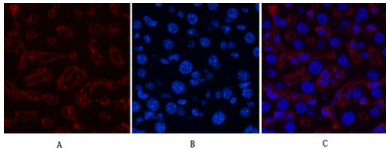
パラフィン包埋ヒト肝組織の免疫組織化学染色。1. コラーゲンIIIモノクローナル抗体(Q76)を1:200に希釈(4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム(pH 6.0)を用いて抗体賦活化(>98°C、20分)を行った。3. 二次抗体を1:200に希釈(室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ラット心臓組織の免疫組織化学染色。1. コラーゲンIIIモノクローナル抗体(Q76)を1:200に希釈(4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム(pH 6.0)を用いて抗体賦活化(>98°C、20分)を行った。3. 二次抗体を1:200に希釈(室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋マウス腎臓組織の免疫組織化学染色。1. コラーゲン III モノクローナル抗体 (Q76) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



マウス肝臓組織の免疫蛍光染色。1, コラーゲン III モノクローナル抗体 (Q76) (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。